

平成29年度第2回都市科学部運営諮問会議議事録

日 時 平成30年3月5日(月)15時00分～16時35分

場 所 事務局本部棟 第2会議室

出 席 佐土原 聡（主宰）、齊藤 麻人、早野 公敏、加藤 尊正、蛭名 喜代作、
笠原 政明、田村 隆弘、張 晴原（陪席）

議事に先立ち、佐土原学部長から挨拶があり、続いて、委員の紹介があった。

議 題

1. 平成29年度に係る評価について

(1) 都市科学部における学生の受入れについて

佐土原学部長から、資料4、5、6、8-1、8-2、8-3、9-1、9-2、9-3にもとづき、都市科学部における学生の受入れについて説明があった。

委員から、今年度の入試状況は例年に比べて異なる点はあるかとの質問があった。これについて、佐土原学部長から、都市社会共生学科および環境リスク共生学科については受験生から内容がわかりづらかったのか、昨年度の志願者数は少なかったが、今年度は広報努力もあり理解が進んだのか、志願者数が増えたという回答があった。

なお、委員から以下の意見等があった。

- ・都市科学部について受験生に向けてわかりやすい情報を発信していくことが大切なのではないか。
- ・おもしろい教育・研究など、話題になるようなことを積極的に発信していくことで、さらに良い学生が集まるのではないか。
- ・倍率は高く志願状況は素晴らしいと思う。また、1年生のアンケートやレポートを読むと、ストレートに色々な意見を出す学生が集まっている印象があり、良い学生を集めているのではないか。
- ・入学した学生たちが何を求めて、これからどう取り組もうとしているかを数値化できるような質問項目と自由記述の入ったアンケートを、入学時と「都市科学 A,B,C」の受講後の2回にわけて実施し、結果を比較してはどうか。

「ストレートに色々な意見を出す学生が集まっている」ということについて、佐土原学部長から、「都市科学 A,B,C」の授業において、都市科学部のなかにせつかく異なる分野の学科があるのに座学だけではもったいない、もっと議論をする場がほしいという声が学生からあがった旨、発言があった。そこで「都市科学 C」では、授業を担当した複数教員と学生でイノベーションについてディスカッションする機会を設けたところ、白熱した議論となり、今後、大講義室の授業において、どのように議論の場を設けるかを課題としていきたい旨、発言があった。

(2) 都市科学部における教育について

佐土原学部長から、資料4、7-1、7-2、8-1、8-2、8-3、9-1、9-2、9-3、10にもとづき、都市科学部における教育について説明があった。

委員から、たとえば資料7-2の「基幹知科目履修状況」に関連して、「都市基盤構造力学」は都市基盤学科の学生しか履修していないが、建築学科の学生は履修しないのか、との質問があった。これについて、早野委員（都市基盤学科長）から、都市基盤学科の開講している構造力学では初歩の内容であり建築学科とも関係しているが、時間割の都合で履修が難しいのかもしれないとの回答があった。佐土原学部長から、来年度から2年次対象の科目が開講されるので、科目や学科による履修の偏りについては今後の課題としたい旨、回答があった。

佐土原学部長から、高校を卒業したばかりの1年生に文理融合の視点を求めるのは厳しいかどうか、意見を伺いたい旨の発言があった。これについて、委員から、多くの高校では2年生から文系・理系が分かれてしまい、3年生では完全に文理でクラス分けされた状況となるので、ハードルは高いのではないかとの回答があった。ただ、高校生でも文系・理系それぞれの視点が大切と感じている生徒はいるはずなので、文系・理系とわかれてしまうことに疑問に思うような学生を都市科学部が必要としているということをしかりと発信すればよいのではないかとの意見があった。

なお、委員から以下の意見等があった。

- ・完成年度に学部の目指すものがきちんと機能しているかどうかを把握することが大事なポイントになってくるのではないか。
- ・これまでとはちがう、都市科学部らしい卒業研究のテーマをアドバイスしていく必要があるのではないか。災害復興や都市の発展にかかる研究は、単独の学科の教員だけに指導を受けるよりも、文理両方の教員から指導されたほうがユニークであるし、本質的なものになりそうな気がする。

卒業論文のテーマについて、佐土原学部長から、大学院に都市イノベーション学府があり、文理融合の研究を行っているので、都市科学部の学生に取り組んでほしい卒業研究のテーマとして整理できるかもしれない、文理融合した研究に触れる機会を持たないといけないと考えているとの発言があった。

なお、都市科学部における教育に関連して、佐土原学部長から、「SAUCE プロジェクト」について説明があった。「SAUCE プロジェクト」とは、「都市科学」という新しい学問を体系化すること、より良い大学にするためにキャンパスにおける課題を改善していくこと等を目的に、各学科代表の学生を中心に立ち上がったプロジェクトであること、来年度から、地域交流科目（副専攻プログラム）として行っている「地域課題実習」として「SAUCE プロジェクト」を申請予定である旨、説明があった。また、外部委員の方々には、ぜひ実践的なフィールドの提供について協力いただきたい旨、依頼があった。

続いて、佐土原学部長から、グローバル人材の育成について、資料6、11-1、11-2、11-3にもとづき、説明があった。

委員から、学部として留学生受入の構想はあるのか、と質問があった。これについて、佐土原学部長から、YGEP の他、都市社会共生学科に英語だけで学士を取得できるプログラム（YCCS）がある旨、説明があった。また、全学で留学生を積極的に受け入れるにあたり、都市科学部は積極的に推進していく役割を担っている旨、説明があった。

なお、委員から以下の意見等があった。

- ・YGEP の定員はもう少し増やせないのか。留学生の割合はそれほど多くないように思う。日本の学生が留学生と一緒に勉強することで、いろいろな気付きがあるだろう。
- ・学生時代に海外経験があれば社会に出てからも積極的にこちらから発信できる。入学時のアンケートでは、短期間（1～2週間）の海外留学を希望している学生が多いようだが、できるだけ長い時間を海外で過ごせるように、経済的なバックアップも含めて、取り組んでほしい。
- ・横浜国立大学は神奈川県内では圧倒的に留学生が多い大学である。その環境を有効活用して、日本人学生と留学生と一緒に過ごせる機会を作ってほしい。

YGEP の定員について、早野委員から、都市基盤学科では48名のところ留学生の定員は8名である旨、補足説明があった。

また、留学生との交流について、齋藤副学部長から、留学生は留学生同士で固まってしまう傾向があるので、壁を崩す取り組みが必要との発言があった。

その他、張教務・厚生委員長から、全学で留学生のキャリアサポートに取り組んでいる旨、補足説明があった。

（3）その他の事項について

佐土原学部長から、資料12、13、14、15、16にもとづき、その他の事項（設備・施設等の整備、財務基盤および管理運営体制、内部質保証システム）について説明があった。

なお、委員から以下の意見等があった。

- ・学部の予算は単位がちがうのではないかとはいくらか少ないように思う。特に学長戦略経費が少ない。もう少し充実させるように大学全体で考えたほうがよいのではないか。

2. 都市科学部への期待・提言

都市科学部への期待・提言として、委員から以下の意見等があった。

- ・こうした新しい取り組みをして、すばらしい環境で勉強した学生が社会にでて、活躍してくれることを切に願っている。
- ・横浜国立大学の学生は良いアイデアをもっていて非常に真面目に取り組むが、他大学の学生に比べてプレゼンテーション能力が弱く、もったいないと感ずることがある。応援するメッセージとして受け止めていただきたい。

- ・全体として新しい学部は順調にすべりだしていると思っている。学生の反応をみても、戸惑いを含めて、「都市科学」という新しい分野を勉強して様々なことを感じていることがよくわかる。ぜひ、学生と一緒に新しい学部を作ってほしい。
- ・大学の外に出て、地域のなかで取材したり、人の話を聞いたり、そんなに大きなことでなくてよいので、多くの学生に経験してもらえるような仕掛けを作ってほしい。
- ・横浜国立大学の学生は真面目でコツコツ頑張るが、情報発信力というところでは少し劣るという印象がある。その殻をやぶるような、まさに都市科学部が目指しているような人材育成をしてほしい。基幹知科目をしっかりと学ぶこと、文理融合の教育、留学生の多さなど、意外に高校は知らないので、横浜国立大学のこれまでの実績も含めてしっかりアピールできると理想の学生が集まるのではないか。ぜひ、情報発信を積極的にしてほしい。
- ・入学志願者も増えており、すべりだしは順調と考えている。取り組みとしていちばん印象に残ったのは「SAUCE プロジェクト」である。学生が自分たちで気が付いて、自ら作っていかうという姿勢は期待できる。その様子を高校生に発信していくことはおもしろい取り組みだと思う。
- ・グローバル化は大変だが、横浜国立大学には他大学にくらべて材料はそろっているようなので、世界の都市を考えながら日本の都市を考える教育プログラムに発展すると良い。
- ・評価の観点について、これから学年が進んでいくにつれて、留年、退学など、教育の質と関連する指標を学年ごとに確認していく必要がある。最終的に完成年度に評価されるポイントがあると思うので、評価のタイミングを検討するとともに、評価のための準備してほしい。

3. 議事録の公開について

佐土原学部長から、議事録を公開することについてご了承いただきたい旨、発言があった。

4. その他

佐土原学部長から、平成29年度の都市科学部の取り組みについて、3月30日までに評価シートを提出いただきたい旨、依頼があった。また、今日の議論と重なっても構わないので、コメントを寄せていただきたい旨、依頼があった。